

# 多文化便り第四号

## 多文化マーケット展示品作り開始

時々、発行

九月二十九日から一週間、多文化マーケットの展示品作り第一弾を行いました。第一弾では、トマトやナス、じゃがいも、トウガラシ、パイナップル、マンゴーなどの野菜と果物を作りました。のべ六十八名が参加しました。

久しぶりに紙粘土に触れて、「なつかしい」と叫ぶ声が教室中に響きました。展示品作りは、こうしてはじめて、和やかな雰囲気の中で進みました。

「これは何だろう？」という不思議な形のものもありますが、いろいろなものが雑多に集まっているのが多文化マーケットの面白さです。

一週間できあがった大よその量は、トマトとじゃがいも、各ダンボール3箱分、トウガラシとインゲン、各ダンボール1箱分、パイナップル、マンゴー、ナス、各ダンボール各2箱分、その他、レモン、ズッキーニ、クッキー、ナドゥ、餃子、ドライフルーツ、ドーナツなどダンボール4箱分です。

多文化マーケット展示品作り第二弾は十月十四日（火）と十五日（水）の十八時から227教室で行います。第二弾では、雑貨とお菓子を作ります。お菓子は、例えば、中国の月餅、韓国、日本のホットク、東南アジアの餅菓子、インドのパルフィ、中東のパン、ラテンアメリカの焼き菓子です。

色付けは10月の第3週以降に行います。詳細は多文化便り第5号でお知らせします。

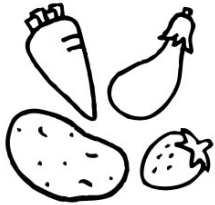
多文化マーケット

氏名 \_\_\_\_\_

日時 \_\_\_\_\_

発行部 担当

国際関係学部 多文化コミュニケーション学科



サンカルロス大学、レイ神父と参加者



セブホームステイ先

フィリピンからの手紙（フィリピン編）

2014年9月4日〜18日に実施された多文化フィリピンスタディには、多文化3年生5名が参加し、セブ・ポホール・マニラの3か所を訪問しました。現地社会・文化などの講義を受け、現地大学生と合同フィリピンワークを実施。セブの観光地姿とは異なる一面を知る機会となりました。現地の社会階級や多面性に触れて戸惑う学生もいましたが、それが持った「違和感」から「なぜ」という問いを意識し、各自の更なる課題として日本へ持ち帰ってきたようです。

宿務小鬼



セブ市内ダウンタウンの市場

多文化マーケット展示品作成 第2弾  
製作品：雑貨・菓子類  
10月14日15日 18~19時 227教室

紙粘土職人の作品



置き場がなくなってきました。

編集担当 熊患須